

2 主な整備箇所(地域版)

7 長門地域のみちづくり

整備が求められる主な路線

産業・地域を「支える」

- 物流等の迅速化・円滑化
- 観光客の利便性の向上
- 交流・連携の強化

7-a	山陰道
7-b	県道長門油谷線

等

人々のいのちを「守る」

- 生活道路等における交通安全対策の推進
- 救急車両の迅速かつ円滑な通行の確保
- 救急医療施設への搬送時間の短縮

7-c	県道長門三隅線
7-d	国道191号

等

災害に「備える」

- 広域道路ネットワークの構築や安心・安全な生活道路の整備
- 防災・減災対策の推進
- 橋梁の耐震補強

7-e	県道青海島線
7-f	県道下関長門線

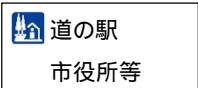
等

未来に「つなぐ」

- 老朽化した道路施設の計画的な修繕・更新等
- 日常的な維持管理の充実・効率化
- 異常気象時等の対応

国道316号
県道下関長門線

等



主な整備中箇所

No.	路線名 (工区名等)	内容	道路整備 目標	4つの方針			
				支える	守る	備える	つなぐ
7-1	山陰道 (俵山・豊田道路)	バイパス	事業継続				
7-2	県道長門油谷線 (西津黄)	現道拡幅	事業継続				
7-3	県道美祢油谷線 (砂利ヶ峰)	バイパス	完成 (R3)				
7-4	県道長門秋芳線 (大河内)	バイパス	事業継続				
7-5	県道長門秋芳線 (坂水)	現道拡幅	完成 (R7)				
7-6	県道油谷港線 (久津)	現道拡幅	部分完成 (R5)				
7-7	県道下関長門線 (俵山)	のり面対策	事業継続				
7-8	県道青海島線 (青海大橋(上り線))	耐震化	事業継続				
7-9	県道仙崎停車場小浜線 (小浜跨線橋)	耐震化	事業継続				
7-10	国道316号 (大ヶ峰トンネル)	長寿命化	事業継続				
7-11	県道下関長門線 (湯本大橋)	長寿命化	事業継続				
7-12	県道青海島線 (青海大橋(下り線))	長寿命化	事業継続				
7-13	山陰道 (三隅・長門道路)	バイパス	事業継続				
7-14	国道491号 (俵山)	バイパス	事業継続				

ここで示す「道路整備目標」は、予算の確保、用地取得等が予定通りに進捗した場合の現時点における目標を示したもので、



2 主な整備箇所(地域版)

7 長門地域の主要な整備箇所

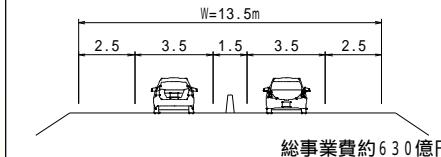
7-1 491 ROUTE 山陰道(俵山・豊田道路)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	バイパス
延 長	L = 13.9 km
幅 員	W = 12.0 ~ 13.5 m
着 手 年 度	平成28年度

[標準断面図]



目的(効果)

- ◆ 地域の産業・観光振興の支援や、安心・安全を確保するため、交流人口の拡大や、物流の効率化等に資するとともに、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築を図ります。
- ◆ 第3次救急医療機関(下関市・宇部市)への速達性、確実性を確保します。



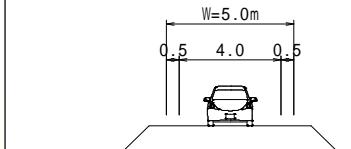
7-2 66 山口 県道長門油谷線(西津黄)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	現道拡幅
延 長	L = 0.3 km
幅 員	W = 5.0 m
着 手 年 度	平成28年度

[標準断面図]



目的(効果)

- ◆ 道路幅員が狭く車両のすれ違いが困難な箇所や見通しの悪い箇所を解消します。



7-3 38 県道美祢油谷線(砂利ヶ峠)

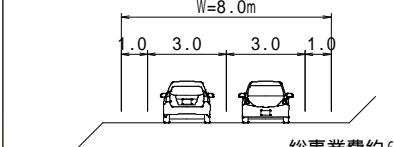
支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	バイパス
延 長	L = 2.0 km
幅 員	W = 8.0 m
着 手 年 度	平成24年度

R3
完成

[標準断面図]



目的(効果)

- ◆ 車両のすれ違いが困難な箇所や見通しが悪い箇所を解消します。
- ◆ 山陰道へのアクセス性が向上します。
- ◆ 北浦地域を周遊する観光ルートを整備し、観光振興を図ります。

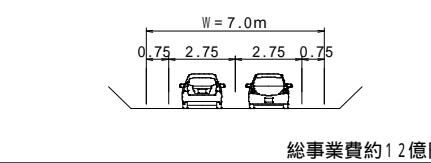
7-4 280 県道長門秋芳線(大河内)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	バイパス
延 長	L = 5.0 km
幅 員	W = 7.0 m
着 手 年 度	平成6年度

[標準断面図]



目的(効果)

- ◆ 車両のすれ違いが困難な箇所や見通しが悪い箇所を解消します。
- ◆ 長門市街地へのアクセス性を向上します。

2 主な整備箇所(地域版)

7 長門地域の主要な整備箇所

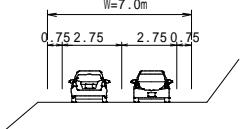
7-5 280 県道長門秋芳線(坂水)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	現道拡幅
延 長	L = 0.9 km
幅 員	W = 7.0 m
着 手 年 度	平成6年度

【標準断面図】



目的(効果)

- ◆ 道路幅員が狭く車両のすれ違いが困難な箇所や見通しの悪い箇所を解消します。



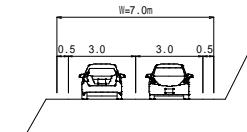
7-7 34 県道下関長門線(俵山)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	のり面対策
延 長	L = 0.2 km
幅 員	W = 7.0 m
着 手 年 度	平成25年度

【標準断面図】



総事業費約3億円



目的(効果)

- ◆ 道路利用者の安全な通行や災害時の円滑な緊急輸送を確保します。

7-6 357 県道油谷港線(久津)

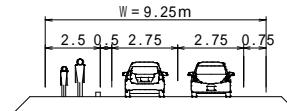
支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	現道拡幅
延 長	L = 0.7 km
幅 員	W = 9.25 m
着 手 年 度	平成26年度

R5 部分完成

【標準断面図】



総事業費約5億円



目的(効果)

- ◆ 道路幅員が狭く車両のすれ違いが困難な箇所を解消します。
- ◆ 国道191号へのアクセス性を向上します。
- ◆ 通学路における児童・生徒をはじめとする歩行者及び自転車の安心・安全な交通環境を確保します。



7-8 283 県道青海島線(青海大橋(上り線))

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	耐震化
延 長	L = 0.3 km
幅 員	W = 10.34 m
着 手 年 度	平成27年度

【標準断面図】



総事業費約4億円



目的(効果)

- ◆ 大地震時に落橋に至るような致命的な被害を防止するだけではなく、被災後、橋梁としての機能を速やかに回復できる性能を確保します。
- ◆ 橋梁の機能を保持し、長寿命化を図ります。
- ◆ 維持管理費の縮減や更新費用の平準化を図ります。

2 主な整備箇所(地域版)

7 長門地域の主要な整備箇所

7-9 282 県道仙崎停車場小浜線(小浜跨線橋)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	耐震化
延 長	L = 0 . 05 km
幅 員	W = 12 . 0 m
着 手 年 度	平成27年度



目的(効果)

- ◆ 大地震時に落橋に至るような致命的な被害を防止するだけではなく、被災後、橋梁としての機能を速やかに回復できる性能を確保します。
- ◆ 橋梁の機能を保持し、長寿命化を図ります。
- ◆ 維持管理費の縮減や更新費用の平準化を図ります。



7-11 34 県道下関長門線(湯本大橋)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	長寿命化
延 長	L = 0 . 1 km
幅 員	W = 9 . 5 m
着 手 年 度	平成25年度



目的(効果)

- ◆ 橋梁の機能を保持し、長寿命化を図ります。
- ◆ 維持管理費の縮減や更新費用の平準化を図ります。



7-10 316 国道316号(大ヶ崎トンネル)

支える 守る 備える つなぐ

概要

内 容	長寿命化
延 長	L = 1 . 1 km
幅 員	W = 8 . 6 m
着 手 年 度	平成26年度



目的(効果)

- ◆ トンネルの定期点検結果を踏まえ、健全度が低下する前に補修や補強等の適切な措置を実施し、施設の長寿命化を図ります。



7-12 283 県道青海島線(青海大橋(下り線))

支える 守る 備える つなぐ

概要

● 内 容	長寿命化
● 延 長	L=0 . 3km
● 幅 員	W=10 . 34m
● 着 手 年 度	令和2年度



目的(効果)

- ◆ 橋梁の機能を保持し、長寿命化を図ります。
- ◆ 維持管理費の縮減や更新費用の平準化を図ります。



2 主な整備箇所(地域版)

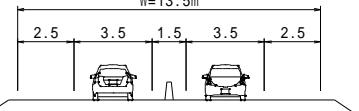
7 長門地域の主要な整備箇所

7-13 191 山陰道(三隅・長門道路)

支える	守る	備える	つなぐ

概要

内 容	バイパス
延 長	L = 10.0 km
幅 員	W = 12.0 ~ 13.5 m
着 手 年 度	令和5年度

[標準断面図]
W=13.5m

総事業費約590億円



目的(効果)

- ◆ 地域の産業・観光振興の支援や、安心・安全を確保するため、交流人口の拡大や、物流の効率化等に資するとともに、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築を図ります。
- ◆ 第3次救急医療機関(下関市・宇部市)への速達性、確実性を確保します。

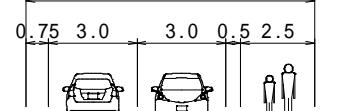


7-14 491 国道491号(俵山)

支える	守る	備える	つなぐ

概要

内 容	バイパス
延 長	L = 0.4 km
幅 員	W = 9.75 m
着 手 年 度	令和6年度

[標準断面図]
W=9.75m

総事業費約8億円



目的(効果)

- ◆ 山陰道や「俵山地区小さな拠点」へのアクセス道路として機能し、地域間の連絡強化や地域の活性化を図ります。
- ◆ 安全で円滑な交通を確保し、地域住民の利便性向上を図ります。
- ◆ 災害時に機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築します。

